

## 試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名：豆腐加工適性に優れ、11月上旬に収穫可能な大豆「サチユタカ」			
〔要約〕中生大豆「サチユタカ」が奨励品種として採用された。本品種は6月下旬に播種すると、収穫期は10月下旬から11月上旬で、「タマホマレ」より2～3日早い中生品種である。子実中の粗蛋白質含有率が高く、豆腐加工適性に優れる。			
キーワード 奨励品種、豆腐加工適性、大豆、サチユタカ			
実施機関名	主 査	農業総合研究センター 育種研究所 畑作物育種研究室	
	協力機関	農業総合研究センター 北総園芸研究所 畑作園芸研究室 生産技術部 水田作研究室	
		東葛、印旛、香取、長生、君津農林振興センター	
	実施期間	1998年度～2005年度	

### 〔目的及び背景〕

現在、本県の中生大豆の奨励品種は、「タチナガハ」「タマホマレ」の2品種であるが、豆腐加工原料としての実需者の評価は低い。特に、「タマホマレ」については、子実の粗蛋白質含有率が低いために豆腐の歩留まりが低く、早急に品種の転換が要望される。そこで、独立行政法人九州沖縄農業研究センターで育成され、豆腐加工適性の高い大豆「サチユタカ」を奨励品種に採用し、県内大豆生産の安定化を図る。

### 〔成果内容〕

- 1 「サチユタカ」は7月上旬に播種すると、「タマホマレ」に比べ、開花期は1～2日遅いが、成熟期は2～3日ほど早い中生品種である（表1）。
- 2 播種適期は6月下旬で、7月中旬まで播種できる。6月下旬播種では成熟期が10月下旬～11月上旬で、後作に麦を作付できる。また、晩生品種「フクユタカ」と組み合わせることにより、作期を拡げ、大規模経営での作業分散が可能となる。
- 3 「タマホマレ」に比べて、収量性はやや高く、密植での増収効果が高い。
- 4 主茎長はやや短く、主茎節数及び分枝数はやや少ない。最下着莢高はやや低い。播種時期が遅くなるほど生育量は減少する。倒伏は少なく、青立の程度は低い。
- 5 粒は「タマホマレ」より大きく、粒揃いは良い。臍周辺に裂皮がみられるが、子実の外観品質は良い。
- 6 子実中の粗蛋白質含有率が高く、豆腐加工適性に優れる（表2、表3）。

### 〔留意事項〕

- 1 生育量が少ない圃場や、播種時期が遅れた時は、着莢位置が低くなって機械収穫時の損失が大きくなる。狭畦・密植栽培等により着莢位置を高くする必要がある。
- 2 百粒重が「タマホマレ」より大きいので、播種量をやや多くする。
- 3 年によっては、莢実害虫の被害を受けることがあるため、開花期以降の防除を行う。
- 4 刈り遅れると裂莢し易いため、適期に収穫を行う。

[ 普及対象地域 ]

県下全域

[ 行政上の措置 ]

奨励品種に採用された ( 2005年 3月 ) 。

[ 普及状況 ]

2005年度作付面積は64 h a、品種別面積比率 6 % ( 5位 ) 。

[ 成果の概要 ]

表 1 奨励品種決定調査結果 ( 1998 ~ 2004年の平均 )

品種名	播種期	開花期	成熟期	倒伏の 程度	主茎長 ( c m )	主茎節数 ( 本 )	分枝数 ( 本 )	最下 着莢高 ( c m )
	( 月 . 日 )	( 月 . 日 )	( 月 . 日 )					
サチユタカ	7.6	8.17	10.29	微	42	13.1	4.2	10.1
(比)タマホマレ	7.6	8.15	11.1	微	50	13.7	5.0	12.1
(標)ヒュウガ	7.6	8.25	11.12	少	67	17.0	4.8	15.4

  

品種名	a 当り 全重 ( k g )	a 当り 子実重 ( k g )	標準 対比	百粒重 ( g )	子実の障害				子実の 品質
					紫斑	褐斑	裂皮	虫害	
サチユタカ	61.7	34.3	118	34.5	微	微	少	少	上中
(比)タマホマレ	58.4	29.0	100	28.5	少	微	少	中	上下
(標)ヒュウガ	68.4	33.6	116	28.6	少	無	微	少	上下

2001年を除く、1998年 ~ 2004年の平均。畦幅70cm、7月上旬播種の普通栽培。

表 2 「サチユタカ」の粗蛋白質含有率

品種名	奨励品種決定調査* におけるデータ		育成地データ (九州沖縄農研成績)	
	蛋白質 ( % )	脂肪 ( % )	蛋白質** ( % )	脂肪** ( % )
サチユタカ	44.7	17.9	44.8	20.4
(標)タマホマレ	40.9	19.0	39.5	23.1
(比)ヒュウガ	41.1	19.5		
(参)フクユタカ	43.8	19.1		

\* 奨励品種決定調査データは2002年のもの。

蛋白質はN Cアナライザーを用いて窒素含有率を測り、係数6.25を乗じた。

\*\* 1998年、2000 ~ 2001年の平均。

表 3 豆腐加工適性試験成績 ( A社 )

品種名	豆乳抽出率 ( % )	豆乳固形分 ( % )	豆腐破断強度 ( g / c m · c m )
サチユタカ	81.4	9.98	85
フクユタカ	82.5	9.97	73

育成地における試験データ。2002年産広島県福山市産大豆を使用。

加工並びに分析はA社による定法、凝固剤は塩化マグネシウム0.25%を使用。

[ 発表及び関連文献 ]

平成17年度試験研究成果発表会